

IDACAだより

第3号 平成23年 3月 1日

● 編集発行
(財)アジア農協振興機関
東京都町田市相原町 4771
TEL: 042-782-4331
FAX: 042-782-4384



< IDACA 研修員の来訪 > ～ J A と国際交流を考える～

J A にじ (福岡県)
代表理事組合長 足立 武敏

J A にじは、南に屏風のように連なる耳納連山、北に九州で一番大きく長い筑後川があり、筑後川沿いの肥沃な土地に、米、麦をはじめほうれん草、レタス、トマト、苺などが多く収穫されます。

このように自然に恵まれる「J A にじ」は、毎年 IDACA を通して、東南アジアを中心に約 20 カ国から研修員の訪問を受けます。

農業協同組合のお話、施設園芸（トマト、苺、花のハウス）の現地視察および J A にじ園芸流通センター、直売所（にじの耳納の里）、デイサービスセンター（にじの家）などを視察いただきます。私たちの説明に対し、英語でたくさんの質問が返ってきます。現在、J A グループの幹部役職員で、英語をマスターしている人はほとんどいないのではないでしょうか。研修員の皆さんが英語を共通語として会話できることは素晴らしいことで、今後日本人も英語をマスターしておくことが必要であると思いました。昼食は J A 施設のアルカスでバイキングを楽しんでいただきます。食事終了後は、女性部文化サークルの方が日舞を披露。日本文化に触れ、踊った方々との記念撮影で交流し、毎回大好評です。

日本の家庭が見たいということで、以前は管内の農家をお願いしていましたが、受け入れ農家の負担が大きいため、ここ数年は我が家にお連れいたしております。日本間の床の間、仏壇に関心が強いようでした。孫娘がまだ小学低学年の頃のこと。一緒に写真に写ったり、すっかり慣れ親しんでいましたが、皆さんが帰る仕度を始めると「帰らないで」と涙を流しました。約 1 時間足らずでしたが、言葉はわからなくても心が通い合うのでしょうか。研修員の皆さんも感動して帰られました。

色々気を使うところもありますが、国際交流の意義は大きく、今後も J A にじへの訪問を歓迎いたします。



デイサービスセンター「にじの家」

<< 目次 >>

- IDACA 研修員の来訪 1
- 研修事業の紹介 2
 - (1) 農業政策企画コース
 - (2) タイ・コミュニティリーダー育成研修
 - (3) 第 5 回 I C A 農村女性起業活動支援研修
 - (4) 平成 22 年度 第 2 回 I C A マーケティング研修
- 調査事業の紹介 6
 - ・ I C A 農村女性起業活動支援研修に係わるフォローアップ事業
- 世界の面白情報

< 研修事業の紹介 >

(1) 農業政策企画コース

JICA の委託を受けて、標記コースを平成 22 年 8 月 23 日より 9 月 17 日まで実施しました。研修員は 10 名でエチオピア、インドネシア、ラオス、モンゴル、ミャンマー、ネパールおよびベトナムにおける農業政策企画担当官です。日本の農業政策の国、県、市町村段階における展開および農業協同組合系統組織活動と農業政策との関連について学び、それぞれの国における農業政策を企画し提案するための行動計画を作成しました。現地研修は広島県で開催され、JA 広島北部の地域農業振興計画や農業生産法人について学びました。また全農広島県本部の関連施設である農産物直売所や精米所、さらに三次ワイナリー等を訪問しました。



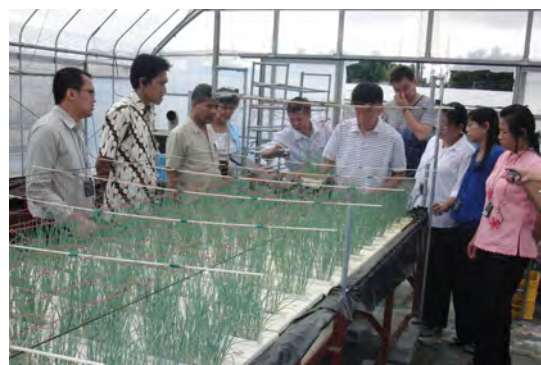
広島市農協役員原爆犠牲者慰霊碑に

農業政策企画コース 現地研修を受け入れて



JA 広島北部 (広島県)
営農部長 田中 秀行

昨年 9 月、農業政策企画コースの現地研修を受け入れました。アジア・アフリカの研修員 10 名に「地域農業振興計画」に関する講義のあと、直売所・農機センター等の施設を見てもらいました。研修員の国々との生産条件の違いもあり、どこまで参考になるかと心配していましたが、参加者の方々は明るく陽気で、講義や見学への質問も活発にされ、安心しました。限られた時間でしたが、情報交換もできていい研修になったと思います。この研修で学ばれことを研修員がそれぞれの国で農協・農村の発展のために生かしていただくよう祈念します。



JA 広島北部クリーンカルチャーグループ訪

(2) タイ・コミュニティーリーダー育成研修

「日タイ経済連携協定」に基づき、JAグループは平成19年度より3ヵ年計画で人的貢献プロジェクトをタイ国において展開してきました。またそのプロジェクトの一環として「タイ農村地域の改善・生活活性化のためのコミュニティーリーダー育成」研修を当機関において実施してきました。本年度はそのフォローアップ及び取りまとめとしてタイ国政府より JICA を通じ研修実施の要請があり、政府行政官8名、農協役職員8名、合計16名を対象として、平成22年8月23日から9月16日までコミュニティーリーダー育成と生活改善活動をテーマとした研修を実施しました。

現地研修では和歌山県を訪問し、JA和歌山中央会、JA紀南、秋津野ガルテン、和歌山県果樹試験場かき・もも研究所、JA和歌山学園等を視察させて頂きました。また、JA紀南女性会のみなさんとの意見交換会も持たせていただきました。

研修員はJA関係者の皆さんの温かいおもてなしと地元の方々の海や山の自然環境を大切に思う気持ちに大変感激していました。



Aコープ紀南「COOK GARDEN」にて

タイ・コミュニティーリーダー育成研修の現地研修を受け入れて



JA紀南（和歌山県）

営農本部長付審議役 小西 博之



この度、和歌山県中央会の紹介により、2010年度タイ・コミュニティーリーダー育成研修として政府の行政官、農業協同組合の役員ら16名の現地研修を受け入れました。今回の現地研修は、JAの組織活動、生活文化活動が主なテーマで、JA紀南の生活・文化活動、食育活動、老人介護活動、女性会の組織活動等について紹介すると共に、Aコープ店や直売所「紀菜柑」、梅干加工場の他、田辺市にあるナショナルトラスト

運動の「天神崎」も見学いただきました。

また、今回のメンバーの内10名が女性であったことから、JA紀南女性会代表との意見交換会を行いました。意見交換は、家庭や仕事での女性の役割から、女性組織の活動や助成金まで幅の広いものになりました。参加したJA女性会員の印象は、女性が組合や行政において活発に活躍していることと、しっかりとした考えを述べることに刺激を受け、依然として男社会の日本の農業協同組合の中で、アジア女性のパワーにカルチャーショックを感じたようでした。常夏のタイの皆さんでしたが、酷暑続きの和歌山県田辺市は、やはり暑いとの感想でした。

(3) 第5回 I C A 農村女性起業活動支援研修

途上国では農村女性は家事労働を含む農業労働力の過半を占めているにもかかわらず、農村地域開発における女性の参画は不十分な状態のままです。

このような中、近年、農村女性の起業活動による雇用創出が農家の所得を向上させ、農村女性のエンパワメント(権利付与)にもつながり、ひいては貧困緩和に大いに貢献すると考えられ、ILOなどの国際機関をはじめとして世界各国で注目されています。

そこで、本研修では域内の農村女性の起業活動を支援するため、我が国における J A 女性部の組織活動、農村女性の起業化活動や農村地域開発等に関する経験を分かちあうため、カンボジア、ラオス、モンゴル、ミャンマー、スリランカ及びベトナムの6ヶ国12名を対象として、I C A アジア・太平洋地域事務局と共催し、9月12日から10月8日まで研修を実施しました。

当機関で研修した後の現地研修では知見を深めるために奈良県を訪問し、J A ならけん女性部活動の説明、女性起業家からのヒヤリング、J A 女性部が運営する直売所施設や J A の柿の選果部による「柿の葉寿司」の料理講習会及び J A 女性部との交流会などを持ちました。



J A ならけん女性部役員及び J A 職員の皆様方との



アジアの女性リーダーを受け入れて

J A ならけん
女性部長 壺井 和子



平成22年9月22日から3日間 (財) アジア農業協同組合振興機関

の

研修員としてアジア6ヶ国より12名の女性と事務局1名をおりしも平城遷都1300年の奈良にお迎えしました。

農村女性起業活動ということで、女性部が活動する加工施設で「かやくごはん」や「小麦餅」作りについて見学・説明を聞いていただき、加工品や農産物を販売する直売所で、農家の人たちが、新鮮野菜を出荷陳列する姿を熱心に見学され、経済基盤など日本とは基本的に異なる国々の皆様も比較的安価な資本で始められる直売所については理解を得ていただいたと思っています。

この研修会で J A ならけん女性部役員達との料理作りを交えた交流会では、言葉の壁はありましたが、今までにない感動と絆を深める貴重な経験となりました。

また、県内の農家の方々を中心に、快くお手伝い頂いた皆様の温かい心に感謝の気持ちでいっぱい

(4) 平成 22 年度 第 2 回 I C A マーケティング強化研修

平成 22 年度 第 2 回「ICA マーケティング強化研修」が 11 月 3 日から 11 月 27 日の期間に実施されました。アセアン加盟国から 9 ヶ国 22 名が参加し、当機関における J A、農産物流通及び農産物安全安心の確保への取り組み等についての講義に群馬県での現地研修をあわせて実施しました。

現地研修では、J A 利根沼田と J A 邑楽館林を中心に、榛名酪農業協同組合連合会（牛乳工場）、高崎市総合卸売市場、A コープ店舗の見学を組み合わせて、多様な流通形態を学ぶことができました。また、こんにやく生産農家と直売所出荷農家への訪問も J A で手配いただき、日本

の農家の生産、出荷の取り組み、抱える課題などを理解する機会となりました。



直売所出荷農家、半田一男さんと



I C A マーケティング研修を受け入れて



J A 邑楽館林（群馬県）
総務部部長 矢口 正人



アジア農協振興機関からの依頼を受け、昨年 8 月と 11 月に 2 回の研修を受け入れました。アセアン各国からの研修員が来られるということで、言葉の問題や当組合の事業が求められるものにマッチしたものなのかなど、若干の懸念はありました。しかし、同じアジアの一員として少しでも役に立つことができればとの思いで、研修に来ていただくことになりました。

2 回とも半日の研修で、時間的に十分ではなかったかもしれませんが、私どもの集荷施設や農産物直売所を見ていただき、研修員の皆さんが国に帰り同じような事業を立ち上げ、活躍されることを思うと満足感もあります。気候や風土、文化も日本とは違う各国の研修員の方々が、自国の農業振興のために尽力されていることを思うと、我々 J A 職員も負けてはいられないと思います。

最後に、11 月の研修で直売所出荷農家訪問を快く受け入れていただきました、半田一男さんに心よりお礼を申し上げます。

< 調査事業の紹介 >

ICA 農村女性起業活動支援研修に係わるフォローアップ事業
～ ベトナム・カンボジアでフォローアップの実施 ～

IDACA では毎年、ICA 女性研修の元研修員を現地に訪問しフォローアップ（研修成果や課題、要望などの調査と事後指導）を実施しています。平成22年度は、10月にベトナム・カンボジアで実施しました。

ベトナムでは、人材不足、資金の欠如等が大きな課題になっています。そういう中で元研修員は、事業推進のためのトレーニングマニュアルの考案、一村一品運動等に取り組み、相応の成果をあげています。カンボジアでは、農協の数も限られていますが、元研修員の一人は、地元資源を活用して農家の所得を向上させるため、女性グループを対象とするプロジェクトを立ち上げました。

こうした両国の女性研修員の努力が大きな実を結ぶよう、情報提供などにより彼女らを支援していきたいと思えます。（次号に続く）



カンボジア・トラパイン農協女性グループ

世界の面白情報 「ベジタリアンって何？」

皆さんは「ベジタリアン」という言葉を聞いた事があるでしょうか。ベジタリアンは「野菜のみ食事に取り入れる人」や「菜食主義者」というイメージが浮かぶと思うのですが、健康、宗教、道徳などの理由から肉食を排する思想や主義の事を指し、実際には色々な流派が存在し、単なる「野菜食」を指す言葉ではないようです。日本ベジタリアン協会によるとベジタリアンを次の4種類に分類しています。

- ① **ビーガン・ピュア・ベジタリアン**： 動物性食品を一切摂らず、動物製品を身に付ける事も一切しない。
- ② **ラクト・ベジタリアン**： 植物性食品に加えて乳製品などを摂る人。
- ③ **ペスクタリアン**： 植物性食品と乳・卵に加え魚介類を食べる人。
- ④ **デミ・ベジタリアン、セミ・ベジタリアン**： ペスクタリアンの中でも魚介類の他に鶏肉を食べる人。

植物性の食品だけではたんぱく質などがきちんと摂れるのかというと、穀類と豆類を合わせて食べる事により完全なアミノ酸ができ、栄養面では十分である事が分かっています。日本でも寺での修行の際などは厳密な菜食が行われ、豆類でたんぱく質を補うのが有名です。



南インドのベジタリアン料理



日本の精進料理